

■氷見市景観形成重点地区指定検討委員会及び景観審議会のご意見とその対応

<第3回 氷見市景観形成重点地区指定検討委員会>

○ワークショップ、実証実験について

項目	ご意見、ご指摘	対応
景観とのつながりの意識	○ワークショップを開く時に、どこを目指して、そのために何をして、どうやって盛り上げていくのかを考えるべきではないか。それが見えずにワークショップで人が集まって楽しくて良かったねということでは、沿道に人の活動が見えていくところに辿り着かない。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度「景観まちづくりウィーク」では、一定の期間で実施することで、一過性のイベントではない企画とします。 ・プロジェクト参加者には、“どんな場面（景観）を生み出したいか”を意識していただくように働きかけます。 <p>(詳細は、資料3)</p>
	○単に賑わいをつくるということではなく、景観を考える集まりであるため、景観が絡む仕掛けを誘導した方が良い。	
	○ワークショップや実証実験と景観のつながりという観点は、非常に重要な指摘。	
令和6年度以降の実現化方策の実装に向けたプログラムの検討	○実現方策が見えてくるようなプログラムが必要。令和4、5年度のワークショップや実証実験は、市民の皆さんが自分達でまちをつくっていけるという実感をもってください。	<ul style="list-style-type: none"> ・国道415号沿道でやってみたいことがある方を公募し、ヒアリング等を通じ、必要に応じた支援を検討します。 ・第2回WSでは、実証実験の結果を踏まえ、参加者より実現化方策のアイデアを募ります。 <p>(詳細は、資料3)</p>
	○実証実験は、実現化方策をつくるお試しと位置づけられる。行政が手を掛けすぎ、離れた時に動かなくなるのではなく、令和6年度に実装していくことが大切。	
高校生や地域の方との協働や参加促進	○一般の方からプロジェクトの趣旨に賛同してくれる心意気のある人をどう集めるか、どのように方向性を共有するか。そして、今回の取組の趣旨に合っているか事務局や検討委員会でもチェックしていくことが大事。	<ul style="list-style-type: none"> ・一般は、チラシを作成し、HP、SNS等で公募し、今後参加者への個別説明やヒアリングを行い、方向性等を共有していきます。 ・氷見高校生は、地域協働学習「シチズンシップ」と連携し、興味を持ってくれた生徒と検討を進めています。 <p>(詳細は、資料3)</p>
	○テンポの良さがワークショップにないのではないか。理論詰めではなく、実際にどういうことができるかが大事。具体的な内容があれば、高校生や地区のお年寄りなど、やりたい人が食いつく。高校生が卒業するまでに何か形を残してあげてほしい。	
	○プロジェクトは、できるだけ早くPDCAを回していくことが大事。	

	○高校の学校教育の中でまちのことを考えるプログラムがあれば、連携した方が良いのではないか。	
	○高校生は、授業とのコラボレーションも検討中とのことだが、ワークショップと授業のペースが違う中でどのように関連させていくのが今後の議論。	

○景観まちづくりのビジョン、テーマについて

項目	ご意見、ご指摘	対応
景観まちづくりのビジョン、テーマについて	○ハードは建物でできても人の営み等のソフトが足りていない印象を受ける。挨拶や交通マナー、犬の散歩時のマナーなど、景観の中で、マナーについても合わせて育んでいく、きれいな景観を創造するために、きれいな心を育てることが大事。景観は人との交わりの中で出てくる。こうしたこともひとつの視点として大事にしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶やマナー、心を育むことも重要であるという観点を「景観まちづくりの意義」等にも盛り込んでいきます。 ・文章や表現をわかりやすく簡潔にするとともに、市民にとって親しみやすい「身近な資源」を守り活かすテーマからはじまる構成とします。 <p>(詳細は、資料4)</p>
	○市民にメッセージとして伝えるためには、もう少しわかりやすく簡潔にしていただけるとよい。できるだけわかりやすい言葉を使っただけだと伝わりやすく、共感も持っていただける。	

○スケジュール、実現化方策について

項目	ご意見、ご指摘	対応
令和5年度の検討スケジュール、目指すゴールについて	○今後の進め方について、令和5年度はゴールをどことして、どのように着地するスケジュールが見えてこない。ゴールが見えないと、その中の施策も打ちづらく、実現したいことができないことが懸念される。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、昨年度の検討を踏まえて、景観まちづくりを推進する方策を構築します。また、景観まちづくりウィークに取組みながら、景観マネジメントの体制を検討し、そこに向けた素地づくりを行います。 <p>(詳細は、資料1、資料3)</p>
	○計画策定後の実現を見据えるのであれば、令和5年度に住民等が主体になった組織が見えてくると一番良い。	
	○どこがゴールかという議論は重要であり、来年度の実践に向けた検討をどうするか。高校生の授業と組みながら、上手く仕組み化できると再来年度以降にも続いていく。	

実現化方策の検討に向けて	○実現化方策に、短、中、長期で何を達成するのかを組み込むのが良いのではないかと。	・第5回、第6回検討委員会で検討する「他主体の協働による景観まちづくりの推進」の中で、意見を踏まえた検討を行います。
	○大事なことは、私たちが市民の皆さんも市役所が何かしてくれる時代ではないことを認識し、意識を変えていくこと。	
	○自分が市民として、どう関わりを持てるのか考えてもらえると良い。景観はその手掛かりである。	
	○色々な人が勝手にやっている状態をつくることできれば一番良い。氷見の活動を景観づくりに繋げていく意識を持つことが重要で、ただ活動するだけでなく、まちにどのように表出させるのかを常に意識しながら取り組んでいくと、まちの景観はすごく良くなっていくと感じた。	

<第3回 氷見市景観審議会>

○景観まちづくりの基本方針について

項目	ご意見、ご指摘	対応
景観まちづくりの目的について	○自然とまち並みをハードとしてまとめているが、自然は景観のベースになるものであるため、これらを一緒にするのではなく、切り分けて考えるのが望ましい。	国道415号沿道における景観まちづくりとその意義を再考し、図の修正を行っています。
景観まちづくりの意義について	○景観まちづくりから関連して出ていく取組みが挙げられているが、循環型社会においては、矢印は一方通行でなく、双方向に出ていないと継続しない。また、景観まちづくりから出ていく先の取組みによって、何が景観に良く、何が悪い影響をもたらすのか、1つずつ吟味していただけると良い。	(詳細は、資料4)
景観特性の捉え方について	○交通手段と合わせて、移動しながら流れるように風景を見た時にどのように見えるのかも、考えていく必要がある。	今後、対応を検討します。
景観まちづくりの方向性について	○海や山をはじめとする氷見の資源にアクセスする拠点であるという意味でのシンボル性の打ちだしを考えていけると良い。	今後、対応を検討します。

具体的な方策について	○ジョギングしている人やサイクリングをしている人も多いため、安全安心して移動しやすい道にできると良いのではないかと。	今後、対応を検討します。
	○屋根は、黒瓦を使用してもらうことを推奨してはどうか。 ○瓦には地域性があり、土（材料）や職人など、トータルで決まることであり、規則として実施するには綿密な制度設計が必要であるため、住民との意見交換の中で検討を進めるなど、慎重に検討してほしい。	資料4の中で、建物の外壁と屋根の素材や色彩等について、考え方やルール案をお示ししています。 (詳細は、資料4)
	○道路脇の防護柵が全て白色であり、周辺の風景の中で目立ちすぎて、景観を台無しにしている部分がある。色合いを自然に調和するものに工夫してけると良い。	資料4の中で、工作物等について、考え方やルール案をお示ししています。 (詳細は、資料4)
	○氷見ICからアクセスした際に、沿道周辺があまり開発されていないことも氷見らしさにつながるとすれば、今後の開発をコントロールするのを見当が必要。	資料4に、建築物・工作物等の規制・誘導の考え方を示しています。 (詳細は、資料4)
	○朝日がすごく綺麗だが視界に電柱が入ってしまう。景色を電柱に遮られずに楽しめたり、国道415号沿道でも良いフォトスポットを紹介できると愛着が高まるのではないかと。	実現化方策の中で検討します。
	○「氷見らしさ」の1つは、どこからでも朝日山や宝達山系が眺められることであり、家並み越しに山並みが見えることではないかと。これを活かし守っていくのであれば、あまり高い建物を建てないように規制・誘導することも考えられる。	資料4に、建築物・工作物等の規制・誘導の考え方を示しています。 (詳細は、資料4)